

〈国語〉

意見文を書くための指導の工夫

——カードを使った活動と交流活動を通して（第6学年）——

名護市立久志小学校教諭 大 城 政 直

I テーマ設定の理由

現代社会は、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新などにより、急速に変化している。このような時代において、これからの子供たちには、他者と協働して課題を解決していくことが求められている。そうした状況を踏まえ『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（以下『解説国語編』）では、「日常生活における人とのかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。」ことが示されている。また、国立教育政策研究所（2021）は、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果から、「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある」と分析している。

本校では、書く領域の課題解決を目指し、校内研究において、新聞記事を切り抜きして個々で題名をつけたり、社会科で工場見学した際の感想を書き新聞投稿したりするなどのNIEを行っている。日々の活動においては、家庭学習に日記を書くことを継続的に行っている。しかし、令和3年度全国学力・学習状況調査において「B書くこと」に関する問題で、県平均との差が14.7ポイントと課題が見られた。また、授業中に文章を書く児童の様子から、2つの課題が見えてきた。1つ目は、「伝えたいことを明確にすることができていないこと」である。児童が、主張の理由、事例として適切なものを選ぶことができていないなどの実態が見られた。2つ目の課題は、「文章全体の構成や展開を考慮することができていないこと」である。それぞれの段落に、どのような内容を書けばよいのか分からずに困っているなどの実態が見られた。これまでの自身の授業実践を振り返ってみても、「始め・中・終わり」と項目が書かれた表に書くことをメモさせただけにとどまり、集めた材料相互の関係を整理し、示すべき理由や事実などを選ばせることが不十分であったと考える。また、「始め・中・終わり」の順に書くように言葉を掲示したが、「序論-本論-結論」や、「頭括型」、「尾括型」、「双括型」などの文章構成の特徴や効果を理解させ、表現につなげることができなかった。

こうした課題を解決するために本研究では、「自分の考えを発信しよう」の単元において、意見文を書くための指導の工夫を行う。言語活動として、沖縄県平和祈念資料館や糸数アブチラガマでの平和学習を通して、児童が思ったことや考えたことを意見文にし、新聞投稿する活動を行う。そこでは、児童が集めた材料相互の関係を整理し、示すべき理由や事実を選ぶことや、それぞれの段落の内容として、どのようなことを書けばよいのか、理由や事実を文章全体の中でどのように配置すると自分の主張が相手に伝わりやすい構成になるかを考えることができるようにする必要がある。その手立てとして、自分の意見と理由や事実をそれぞれカードに書かせ、それらを主張が相手に伝わりやすい構成に並べ替える「カードを使った活動」と、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しているか、構成を考えて書いているかなどをグループで伝え合い、推敲し合う「交流活動」を行う。そうすることで、自分の伝えたいことを明確にすることや、文章全体の構成や展開を考えながら意見文を書く児童を育成できると考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

意見文を書く学習において、自分の意見と理由や事実をそれぞれカードに書いて並べ替えたり、グループで互いに伝え合い、推敲し合ったりする交流活動を通して、伝えたいことを明確にすることや、文章全体の構成や展開を考え、意見文を書く児童を育成することができるであろう。

Ⅱ 研究内容

1 「意見文を書く」とは

『解説国語編』において、「意見を述べる文章を書くとは、理由や事例を明確にしながら、筋道を立てて自分の考えを述べることである。」と示されている。また、自分の考えが伝わるような書き表し方の工夫として、「事実と感想，意見とを区別して書くなど，書き表し方を工夫すること」が示されている。水戸部修治・吉田裕久（2017）は、「相手に伝えたいことを分かりやすく伝えるためには，筋道の通った文章を書くことが不可欠である。そのためには，構成の段階で筋道立てた組み立てを考えておくことが必要となる。」と述べている。

そこで本研究では、①事実と意見を文末表現に注意して書くなど、書き表し方を工夫し、伝えたいことを明確にしている。②自分の主張が相手に伝わりやすい構成を考えている。このような文章が書けると、「意見文を書くことができた」と捉える。

2 「カードを使った活動」について

(1) 「伝えたいことを明確にするカードを使った活動」について

『解説国語編』において、「集めた材料相互の関係が整理されることによって，示すべき理由や事例などの事実が絞られ，伝えたいことを明確にすることができる。」と示されている。また、材料相互の関係を整理するための具体的な例として、「集めた材料を，目的や意図，相手に応じて，主張の理由，事例として適切なものを選んだり，優先順位を考えて並べたりすることである。」などが挙げられている。

検証では、「平和学習を通して思ったことや考えたことを、意見文に書き新聞投稿する」という、書く目的と相手を見学と確認しながら学習を進めていく。まず、単元開始前に児童に伝えたいことを考えておくように声をかけたり、ウェビングマップを活用して発想を広げられるようにしたり、グループでの交流活動を取り入れたりする。そうすることで、主張したい事柄を決定できるようにする。

伝えたいことを明確にするために、国立教育政策研究所（2021）が提案するカードを使った活動を参考にした手立てを取り入れる。具体的には、平和学習で学んだことの中から主張の理由、事実として適切なものを選び、図1のようなカードに意見と理由や事実を分けて書く。その後、図2のように文章に書く際の優先順位を考えて番号が打てるように「伝えたいことを明確にするカードを使った活動」を行う。そうすることで、内容ごとにまとめたり、材料を結び付けたりするなど、材料相互の関係を整理できると考える。

事実と意見を区別するために、『解説国語編』において、「文末表現に注意することも重要である。」と示されている。飯間浩明（2006）は、事実を「本当にあったこと・誰でも確かめられること」、意見を「その人が考えたこと」と示している。国立教育政策研究所（2021）は、事実の文末表現の例えを、「～ということでした。」「～と書いてありました。」としている。また、意見や考えを表す文末表現として、「～だと考える。」「～が大切だ。」と示している。検証では、上記を参考に作成した表を見学に提示する。そして、自分の考えが伝わるように事実と意見を区別し、そ

意見	理由	事実
〇〇〇 書くことを簡条書きで記入しよう！	〇〇〇 書くことを簡条書きで記入しよう！	〇〇〇 書くことを簡条書きで記入しよう！

図1 伝えたいことを分けて書くカード

意見	理由	事実
①④② 書くことを簡条書きで記入しよう！	⑤④③ 書くことを簡条書きで記入しよう！	⑦⑥⑧ 書くことを簡条書きで記入しよう！

主張の理由、事実として適切なものはどれだろう。

文章に書く際の優先順位を考えよう。

図2 「伝えたいことを明確にするカードを使った活動」

それぞれの文末表現に注意して書き分けることを確認する（表1）。

カードに分けて書くことで、児童は自分が主張したいことは何か、それを支える理由や事実は何なのかを考えやすくなり、事実と意見を文末表現に注意して書くなど、書き表し方を工夫するとともに、伝えたいことを明確にすることができると考える。「伝えたいことを明確にすることができたか」は、これら一連の「伝えたいことを明確にするカードを使った活動」で見取っていく。

(2) 「文章全体の構成や展開を考えるカードを使った活動」について

伝えたいことが相手に分かりやすく伝わる文章構成を考えるために、『解説国語編』においては、「それぞれの段落の内容としてどのようなことを書けばよいのかを考えたり、自分の考えを一貫して述べたりすることなどに注意したりすることが大切である。」と示されている。また、文章全体の構成や展開の例として、「例えば、基本的なものとして『序論－本論－結論』などが挙げられる。また、統括する内容を位置付ける箇所によって、『頭括型』、『尾括型』、『双括型』がある。」と示されている。このことから、主張が伝わりやすい文章構成にするためには、児童がそれぞれの構成の特徴や効果について理解する必要があると考えた。そこで、白石範孝（2020）が示した文章構成の特徴を参考に、表2を作成した。

検証では、意見文を書く前に表2を児童に提示し、それぞれの構成の特徴と効果を確認することで、自分の主張が相手に伝わりやすい構成を考えることができるようにする。その上で、「文章全体の構成や展開を考えるカードを使った活動」を行う（図3）。

カードに書くことで並べ替えやすくなり、理由や事実を文章全体の中でどのように配置すると自分の主張が相手に伝わりやすい構成になるか考えることに有効である。さらに、それぞれの段落の内容としてどのようなことを書けばよいのか分かると考える。活動後、「なぜ自分はこの文章構成にしたのか」を振り返ることによって、文章全体の構成や展開を考えているか見取っていく。

3 「交流活動」について

水戸部修治・吉田裕久（2017）は、「書き手の立場からだけでなく、読み手の視点に立った推敲も大切である。そのため自己評価に加えて相互評価も積極的に取り入れ、他者からの指摘や助言を推敲に生かしていけるようにしたい。」と述べている。そこで本研究では、交流活動を取り入れ、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しているか、構成を考えて書いているかなどを伝え合う。しかし、本学級の実態として、何の手立てもないままに交流活動を行うと単なる一方向の発表にとどまり、推敲し合うことができないことが予想される。そこで、交流活動をする前に、

表1 事実と意見を区別する基準と文末表現例

視点	区別する基準	文末表現の例え
事実	「本当にあったこと・誰でも確かめられること」 例 戦力にならない患者は置き去りにされたそうだ。 「戦争に負けたという事実を信じない人がいた」と書かれていた。等	「～ということだ。」 「～と書いてあった。」 「～そうだ。」等
意見	「その人が考えたこと」 例 今、近くに友達がいることが幸せだと思う。 平和について考える時間が必要だと考える。等	「～だと考える。」 「～が大切だ。」 「～だと思う。」等

表2 文章構成の特徴 白石範孝（2020）参考

	①頭括型	②尾括型	③双括型
基本文型	〈始〉 〈中〉 〈終〉 意見	〈始〉 〈中〉 〈終〉 意見	〈始〉 〈中〉 〈終〉 意見
特徴	・意見を〈始〉で述べ、〈中〉で理由や事実を挙げる。 ・〈終〉に意見はない。	・〈終〉で意見を述べる。	・〈始〉で最初の意見を述べる。 ・〈終〉では新しい情報を加えたまとめの意見を述べる。



図3 「文章全体の構成や展開を考えるカードを使った活動」

表3のような下書きをチェックする視点を確認し、視点に沿って推敲し合えるようにする。具体的な交流活動の流れは、まず個人で自分の下書きを読み、不足している情報はないか考えたり、不安に思っている部分にメモや線を書いたりする。次に、チェックする視点に沿って、グループで互いの下書きを読み合い質問や説明をし合う。それから、グループで不安に思っていることやアイデアなどを伝え合い、推敲し合う（図4）。第5時において、これらの活動を行う。

交流活動を取り入れることで、個人で文章を推敲するよりも、互いの意見文に対して指摘し合って改善したり、友達のアイデアを取り入れたりするなど、様々な視点で推敲することができると考える。交流中の発言や、交流後の下書きをもとに、友達の意見やアドバイスを受けてより相手に伝わりやすい文章にしているかを見取っていくこととする。

表3 チェックする視点

チェックする視点			
①「事実」が書かれている文章は、例のような文末表現になっているかな？ 例…「〜と書いてあった。」 「〜そうだ。」等	②「意見」が書かれている文章は、例のような文末表現になっているかな？ 例…「〜と思う。」 「〜が大切だ。」等	③自分の考えが読み手に伝わりやすい構成になっているかな？ 例…始めの段落に「意見」をもつてくることによって、読み手を引きつける構成になっている	④「予想される反対意見とそれに対する反論」が書かれているかな？ 例…「たしかに、「〜」の意見に賛成する」ということは、難しいことかもしれない。しかし、自分ができる身近なことを続けていけば、平和な世界につながるのではないだろうか。



図4 具体的な交流活動の流れ

Ⅲ 指導の実際

1 単元名 「伝えよう！平和学習を通して思ったことや考えたこと」

教材名 「自分の考えを発信しよう」（教育出版6年下）

2 単元目標

- 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。【知識及び技能(1)力】
- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。【思考力、判断力、表現力等B(1)ウ】
- 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。【思考力、判断力、表現力等B(1)オ】
- 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。【思考力、判断力、表現力等B(1)カ】
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。【(1)力】	①「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。【B(1)ウ】 ②「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。【B(1)オ】 ③「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。【B(1)カ】	①粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。

4 単元の指導と評価計画（全6時間）

	○学習活動	・指導上の留意点	【評価規準】（評価方法）
学習前	○平和学習に向けての学習課題を設定する。 ○自分の学習課題に関する情報を収集する。 ○沖縄県平和祈念資料館や糸数アブチラガマを訪れて、自分の学習課題について調べる。	・基本的なテーマを提示し選べるようにする。 ・引用する文章は出典をはっきりさせておく。 ・平和学習後に意見文を書くことを伝える。	
1	○単元のゴールを確認する。 ○表1の文末表現の例えをもとに、モデル文から事実と意見を読み取る。	・ゴールをイメージしやすいように、モデル文を提示する。 ・表1の文末表現の例えを提示する。 ・事実と意見を区別して書くなど、書き表し方を工夫することを意識し、モデル文を読み取らせる。	【知・技①】 文章の構成や展開、話や文章の特徴について理解している。 （行動・記述） 【態度①】 学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。 （行動・記述）
2	○これまで習った構成について振り返る。 ○集めた情報をもとに、自分の主張したい事柄を決定する。	・ウェビングや交流、伝えたいことの例を提示するなどして、主張の決定をうながす。 ・教師は、児童が必要とする資料やURLを紹介する。	
課題	○主張が相手に伝わりやすくなる情報を収集する。	・授業内だけでは集められない資料などを、本やインターネット、新聞などから収集する時間を設ける。	
3 【検証①】	○「伝えたいことを明確にするためのカードを使った活動」を行う。 ○事実と意見、理由を区別してカードに書く。 ○文章に書く際の優先順位を考えて番号を打つ。	・事実と意見を区別して書くなど、書き表し方を工夫する視点を確認した上で自分の考えをカードに書かせる。 ・引用した文章などは出典をはっきり明記するように伝える。 ・カードに、意見文に書くことを箇条書きで記入させる。	【知・技①】 文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。 （行動・記述） 【態度①】 粘り強く試行錯誤しながら書き表し方を工夫している。 （記述）
4	○モデル文をもとに文章構成の特徴や効果を知る。 ○「文章全体の構成や展開を考えるカードを使った活動」を行う。 ○下書きをする。	・モデル文を提示し、頭括型、尾括型、双括型それぞれの特徴と効果を児童が構成を考える手立てとする。	【思・判・表②】 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。 （記述・発言・意見文） 【思・判・表①】 事実と意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 （カード・意見文）
5 【検証②】	○チェックする視点に沿ってグループで交流活動を行うことによって、主張が伝わりやすい文章になるように推敲する。 ○下書きを完成する。	・交流活動の流れを具体的に示す。 ・書き表し方の工夫や文章構成などについてチェックする視点を確認し、視点に沿って推敲し合えるようにする。	【思・判・表③】 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。 （記述）
6	○文章を清書する。 ○意見文を読み合い、互いのよさを伝え合う。	・完成後は、清書した者同士で互いの意見文を読み合い、友達のかえや書き表し方のよさを伝え合わせる。	

5 本時の学習

- (1) 目標 交流活動を通して、主張が相手に伝わりやすい文章になるように、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を推敲し合うことができる。
- (2) 本時の展開（5／6時）

	○学習活動	・指導上の留意点	【評価規準】（評価方法）
導入5分	前時の学習の確認 ○単元のゴールを確認する。 ○これまでの学習を振り返る。 ○めあてを考える。	・単元のゴールや前時までの学習を振り返らせ、本時のめあてを立てるようにする。	

って、それぞれで考えることができ、内容ごとにまとめたり、材料相互を結び付けて関係を明確にしたりすることができたと考察する。図6のように、児童Bが書いたカードをみると、事実と意見をカードごとで考え、はっきりと区別し、文末表現に注意して書き分けていることが分かる。第3時終了の時点で、事実と意見を文末表現に注意して書き分けている児童は、82%だった(図7)。事実と意見をカードに分けて書いたことによって、それぞれを混同せずに区別することができ、文末表現に注意して書くなど、書き表し方を工夫することができたと考える。しかし、4%の児童は事実と意見をどちらも書き分けることができていなかった。これは、事実と意見の違いを丁寧に押さえることができなかったことが要因だと考える。今後は、題材に沿った事実と意見の文章例を個別に示すなど、個に応じた指導を考えていく必要がある。一方で、カードを使った活動後に行ったアンケートにおいて、『伝えたいことを明確にするカードを使った活動』は、伝えたいことを明確にすることに役立ちましたか。」という質問を行った結果、96%の児童が「役立った」と回答した。役立った理由として、「意見や理由を分けて書くことで曖昧にならずに考えやすくなった」「いつもは、ぐちゃぐちゃに書いているけど分けて書くことで文がまとまった」「順番(文章に書く際の優先順位)を決める時に便利だった」などが挙げられていた。



図6 児童Bが書いた事実と意見のカード

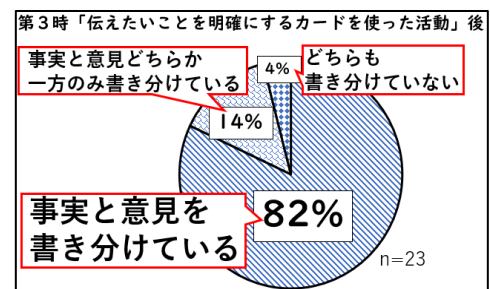


図7 第3時終了後
事実と意見を書き分けている児童の割合

以上のことから、意見と理由や事実をそれぞれカードに分けて書く「伝えたいことを明確にするカードを使った活動」は、事実と意見を文末表現に注意して書くなど、書き表し方を工夫するとともに、伝えたいことを明確にすることに効果的な手立てであったといえる。

(2) 「文章全体の構成や展開を考えるカードを使った活動」の効果について

文章全体の構成や展開を考えたり、それぞれの段落の内容として、どのようなことを書けばよいのか分かったりすることができたかを検証する。活動中の様子、児童が書いたカード、授業後の振り返りやアンケートの結果をもとに、「理由や事実を文章全体の中でどのように配置すると、自分の主張が相手に伝わりやすい構成になるか考えているか」「それぞれの段落の内容としてどのようなことを書けばよいのか分かっているか」の視点で分析した。

児童が書いた振り返りを確認すると、「私は、『双括型』の文章構成にしました。なぜなら、意見を最初と最後に書くと、読み手の心に残ると思ったし、意見がより強調されるので、自分の考えが相手に伝わると考えたからです。」と書かれており、相手に伝わりやすい文章構成を考えていることがうかがえる。このように、文章構成の効果を理解した上で自分の文章の構成を考えている児童が86%いた。カードを並べ替えて構成を考えることで、文章構成の効果を感じやすくなったと捉えることができる。しかし、14%の児童は文章構成の効果を理解した上で構成を考えることができていなかった。これは、意見を位置付ける箇所によって、読み手への伝わり方に違いがあることを丁寧に確認することができなかったことが要因だと考える。今後は、文章構成の効果について全体で考えるだけでなく、ペアやグループで例文を並べ替え、構成の効果を確認する場を設定するという支援が考えられる。一方で、図8のように文章構成の効果を考えると同時に、それぞれの段落の内

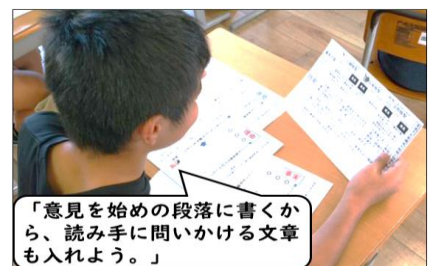


図8 構成や内容を考えている様子

容としてどのようなことを書けばよいのか考える様子が見られた。授業後に、児童が書いたカードを確認すると、86%の児童がそれぞれの段落の内容としてどのようなことを書けばよいのか分かり、意見文の下書きを書き始めていた。授業後に行った、『文章全体の構成や展開を考えるカードを使った活動』は、自分の主張が相手に伝わりやすい構成を考えることに役立ちましたか。」というアンケートにおいては、「どの順番の方が伝わるか、並べ替えることで、自分の構成が分かった」「どうすれば、自分の意見を相手に伝えるかも知れたし、並べ替えると、とても書くイメージができました」という回答が見られた。文章構成の効果を考え、実際にカードを並べ替えることで文章全体の構成や展開が考えやすくなったことがうかがえる。

これらのことから、「文章全体の構成や展開を考えるカードを使った活動」は、文章全体の構成や展開を考えたり、それぞれの段落の内容として、どのようなことを書けばよいのか分かったりすることに有効であったといえる。

2 「交流活動」の効果について

友達の意見やアドバイスを受けて、より相手に伝わりやすい文章にすることができたか検証する。活動中の様子や、授業後の振り返りや下書きをもとに、「間違いを訂正したり、表現を工夫したりしているか」「友達のアイデアを取り入れているか」の視点で分析した。

交流活動をする前に、下書きをチェックする視点を確認し、視点に沿って確認できるようにした。実際に、交流活動では、互いの下書きを読み、「僕は『～な気持ちになった。』や『～変化した。』の文末表現がよかった。」「僕は『～変化した。』の文末表現がよかった。」「この文章だとおかしくない？」「この文章は？」のように、考えが伝わるような書き表し方の工夫について練り合う姿が見られた。また、「結論の前に何か文章を入れたいのだけれど…」「この文章だとおかしくない？」「こういう文章は？」のように、構成を考える視点で推敲する様子が見られた（図9）。授業後の振り返りでは、「みんなと文に足りないところを指摘し合ったり、その部分についてアイデアを出し合いました。1人でやるよりもスムーズに直すことができました。」「自分では考えてなかったこともグループでは、色々な視点から考えることができるし、文末表現や、『始めの段落に、事実を知って考えたことを書いた方が、主張が読み手に伝わりやすいよ』と、皆で考えることができました」などが書いてあった。このことから、間違いに気付くことができたり、新しいアイデアを出し合ったりするなど、様々な視点で推敲できた様子がうかがえる。また、図10のように「交流活



図9 交流活動の様子

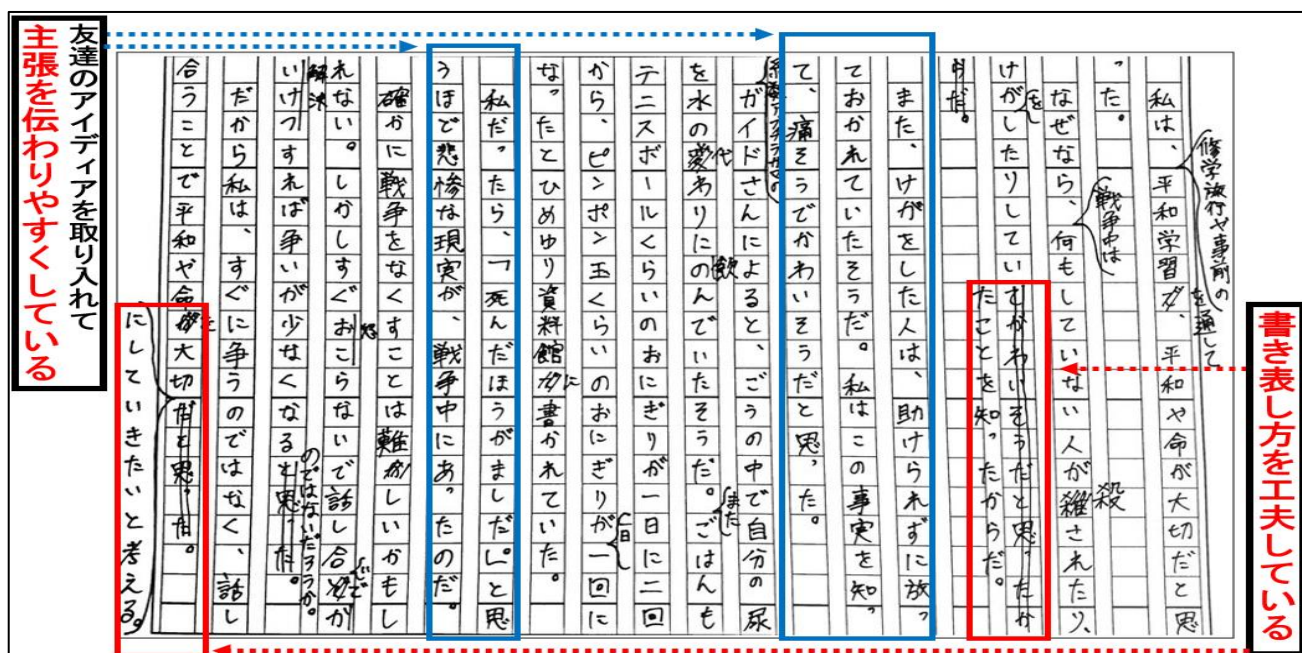


図10 「交流活動」を行った後の児童Cの下書き

動」を行う前と後の下書きを比べてみると、児童Cのように書き表し方を工夫したり、友達のアイディアを取り入れて主張を伝わりやすくしたりすることができていた。さらに、交流活動を通して推敲した意見文を確認すると、図 11 のような改善が見られた。これは、交流することによって得られた成果だと考えられる。交流活動後の、グループで推敲することについてのアンケートでは、「自分で、直した方がいい所を探してもあまり見つけられなかったけど、友達に見せたら直した方がいい所がたくさんあった」「自分の考えだけではなくグループの人の話も聞けて自分の文がより良くなった。」という回答が見られた。

以上のことから、個人ではなくグループで推敲し合う「交流活動」は、互いの意見文に対して指摘し合って改善したり、友達のアイディアを取り入れたりするなど、より相手に伝わりやすい文章にすることに効果的であったといえる。

3 まとめ

「カードを使った活動」や「交流活動」を取り入れることで、児童がどのくらい意見文を書くことができたか検証する。第6時に児童が書いた清書を、単元目標（3）の「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。B(1)オ」の視点で分析した。

表4のように評価基準を設定し、児童の清書を確認してみると、A評価の児童は全体の9%、B評価は77%、C評価は14%という結果であった。A評価とB評価を合わせて86%の児童が意見文を書くことができていた。しかし、A評価の児童は9%と少なく、説得力のある文章にすることができなかった。説得力のある文章にするために、反対意見に対する反論を書き加えることを確認し、例文を示したり、「確かに～。しかし～」などの文型を押さえたりしたが、困惑している児童の様子が見られた。これは、書く題材を「平和」に設定したため、平和を願う意見に対する反対意見を考えることが難しく、反対意見に対する反論を書くことができなかったと考える。今後は、説得力のある意見文が書きやすい題材を設定する必要がある。一方で、児童が書いた意見文を確認してみると、児童Bのようにカードに書いた際と同様に事実と意見を区別し、書き表し方を工夫していることがうかがえた（図12）。また、児童Aのように主張の理由、事実として適切なものを選ぶことで、伝えたいことを明確にしていることが確認できた（図13）。そして、児童D同様にそれぞれの段落にどのような内容を書けばよいのか分かり、文章全体の構成や展開を考えている様子が見られた

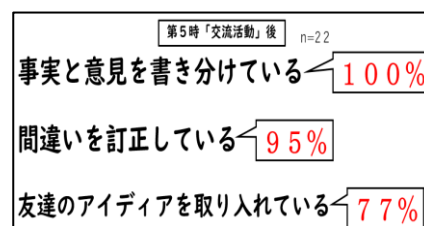


図 11 交流活動後の意見文の様子

表 4 意見文の評価基準と評価ごとの児童の割合

評価基準	A 文や文章が整えられているとともに、反対意見に対する反論を加えるなどして、説得力のある内容になっているかに着目して文章が整えられている。	B [始め],[中],[終わり]の各部分とそこに含まれる要素が繋がりをもって適切に配置されるように文や文章が整えられている。	C [始め],[中],[終わり]の各部分とそこに含まれる要素が繋がりをもっていないなど、適切に配置されるように文や文章が整えられていない。
児童の割合	9%	77%	14% n=23

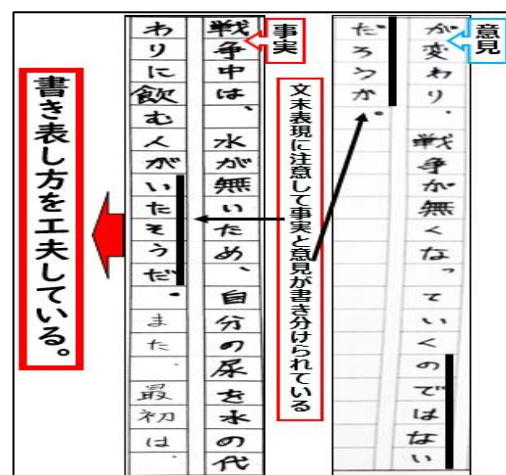


図 12 児童Bが書いた意見文



図 13 児童Aが書いた意見文

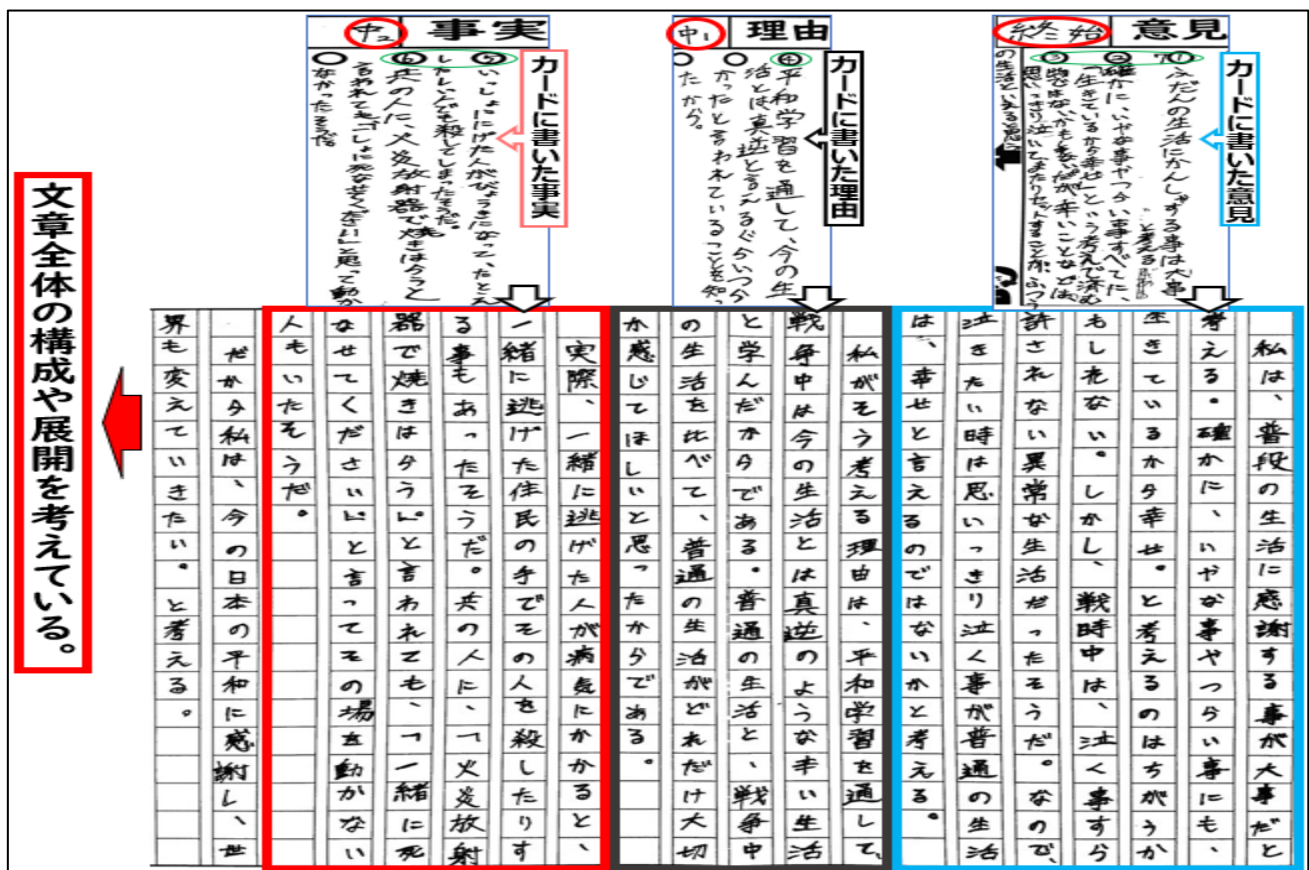


図 14 児童Dが書いた意見文

(図 14)。これらは「カードを使った活動」や「交流活動」を取り入れたことで、児童が文や文章を整え、工夫したことが生かされた結果であると考えられる。また、令和 4 年 2 月 17 日木曜日に、本研究で児童が書いた意見文が新聞に掲載された。

以上のことから、「カードを使った活動」や「交流活動」を取り入れることは、①事実と意見を文末表現に注意して書くなど、書き表し方を工夫し、伝えたいことを明確にしている。②自分の主張が相手に伝わりやすい構成を考えている。このような意見文を書くことに有効であったといえる。

V 成果と課題

1 成果

- (1) 「伝えたいことを明確にするカードを使った活動」を取り入れたことで、材料相互の関係を整理し、主張の理由、事例として適切なものを選ぶことができ、書き表し方を工夫するとともに、伝えたいことを明確にすることができた。
- (2) 「文章全体の構成や展開を考えるカードを使った活動」を取り入れたことで、それぞれの段落の内容としてどのようなことを書けばよいのか分かり、文章全体の構成や展開を考えることができた。
- (3) 「交流活動」を行うことで、互いの意見文に対して指摘し合って改善したり、友達のアイデアを取り入れたりするなど、自分の主張が相手に伝わりやすいように文章を書き直すことができた。

2 課題

- (1) 主張が相手に伝わりやすい文章にするために、理由、事例として適切なものを選ぶ際に、材料の量や質が不十分な児童が見られたため、指導の工夫を行っていききたい。
- (2) 主張が伝わりやすくなるような文章を書き加えることができずに困っている児童の姿があったため、手立てを考えていききたい。

〈参考文献〉

- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2021 『令和3年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語』
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2020 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』 東洋館出版社
- 白石範孝 2020 『白石範孝の「教材研究」－教材分析と単元構想－』 東洋館出版社
- 文部科学省 2018 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』 東洋館出版社
- 水戸部修治・吉田裕久 2017 『新学習指導要領の展開』 明治図書出版株式会社
- 松村明 1995 『大辞泉』 株式会社小学館

〈参考 Web サイト〉

- 文部科学省ホームページ 2015 「3. 学習評価の在り方について」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364317.htm（最終閲覧 2022 年 1 月）
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2021 「全国学力・学習状況調査 授業アイデア例 令和3年度」
<https://www.nier.go.jp/jugyourei/r03/index.htm>（最終閲覧 2021 年 11 月）
- NHK for school 2006 「わかる国語 読み書きのツボ 5・6年 事実？意見？～事実と意見を区別する～」
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005150031_00000（最終閲覧 2021 年 11 月）
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2021 「令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果」
<https://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukoku/21summary.pdf>（最終閲覧 2021 年 10 月）
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2021 「令和3年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」
<http://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/report/data/19plang.pdf>（最終閲覧 2021 年 10 月）